

みやぎ経済月報

(2013年7月)

平成25年7月29日

目	次
I 本県の経済概況	1
II 主な指標の動き	3
鉱工業生産指数 5月	3
大口電力使用量 5月	3
新設住宅着工戸数 5月	4
公共工事請負金額 6月	4
大型小売店販売額 5月	5
乗用車新車登録台数 5月	5
消費者物価指数 5月	6
求人倍率 5月	6
雇用保険受給者実人員 5月	7
企業倒産 6月	7
III 宮城県景気動向指数（概要）	8
IV 全国・東北等の景況	9
V 主要経済指標	12

利用される方に

■この経済月報は、本県における経済活動の主要項目分野に着目し、当該分野の経済指標の数値変動をもとに、本県経済の状況をマクロ的視点から定性的に表現することを目的としています。

■資料は、官公庁、団体、会社等の業務資料および当該機関の刊行した統計資料等によったもので、資料をご提供いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

■数字の単位未満は、原則として四捨五入しており、合計と内訳の計とが一致しない場合もあります。なお、指標の一部に速報値等を利用しており、翌月に数値変更の場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■統計表の符号は次のとおりです。

- 「▲」.....負数
- 「…」.....数字が得られないもの
- 「-」.....該当数字がないもの

■内容についてのご照会、ご意見は、
宮城県震災復興・企画部統計課
(分析所得班)
〒980-8570
仙台市青葉区本町三丁目8番1号
電話 022-211-2453 (直通)
にご連絡下さい。

■本誌の内容は、インターネットでもご覧いただけます。



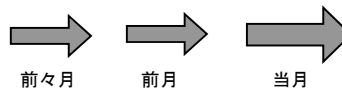
宮城県統計課ホームページ

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/toukei/>

I 本県の経済概況

5月を中心とした宮城県経済の動向

東日本大震災（以下「震災」という。）による多大な影響が各方面に生じているなかで、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに回復している。



- ・生産：震災の影響により厳しい状況にあるなかで、横ばい傾向の動きとなっている。
- ・住宅投資：持ち直している。
- ・公共投資：持ち直しの動きとなっている。
- ・個人消費：弱い動きとなっている。
- ・雇用：求人倍率は高水準となっており、改善している。
- ・企業倒産：小康状態が続いているなかで、増加傾向の動きがみられる。

生産



鉱工業生産指数(5月)は、前月比が2か月ぶりの上昇となった。前年同月比は15か月ぶりの低下となった。大口電力使用量(5月)は、前年同月比が3か月連続の上昇となった。

住宅投資



新設住宅着工戸数(5月)は、前年同月比が持家は2か月連続の増加、貸家は17か月連続の増加、分譲住宅は4か月連続の増加となった。全体では4か月連続の増加となった。

公共投資



公共工事請負金額(6月)は、前年同月比が国は4か月連続の減少、県は2か月連続の増加、市町村は2か月ぶりの増加となった。全体では4か月ぶりの増加となった。

大型小売店



大型小売店販売額(5月、百貨店・スーパーの販売額の合計。)既存店比較は、前年同月比が2か月連続の減少となった。全店舗比較は、前年同月比が2か月連続の減少となった。

自動車



乗用車新車登録及び届出台数(5月・普通、小型、軽自動車の合計)は、前年同月比が10か月連続の減少となった。普通車は、前年同月比が9か月連続の減少、小型車は11か月連続の減少となった。軽自動車は2か月ぶりの減少となった。

物価



仙台市消費者物価指数(平成22年=100)(5月)生鮮食品を除く総合指数は、前月比が4か月連続の上昇となり、前年同月比は4か月ぶりの上昇となった。総合指数は、前月比が3か月連続の上昇、前年同月比は4か月ぶりの上昇となった。

雇用



求人倍率(5月)は、有効は前月比が10か月ぶりの低下となり、新規は3か月ぶりの上昇となった。雇用保険受給者実人員(5月)は、前年同月比が14か月連続の減少となった。

企業倒産



企業倒産(6月)は、件数は前年同月比が6か月連続の増加となった。負債総額は、前年同月比が3か月連続の増加となった。大型倒産(負債総額10億円以上)は、発生しなかった。

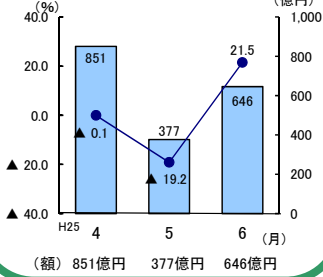
(⇔ は変化方向)

直近3か月の経済動向(前年同月比の動き)

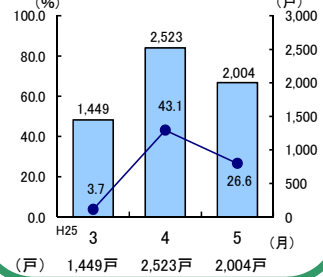
■ は実数値(右目盛)
● は前年同月比の推移(左目盛)
※については、前月差

投資

公共工事請負金額

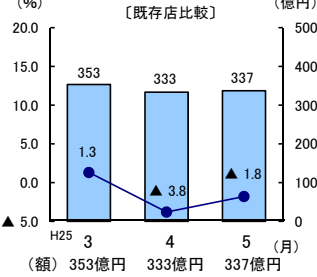


新設住宅着工戸数

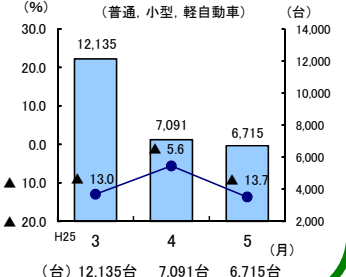


消費

大型小売店販売額

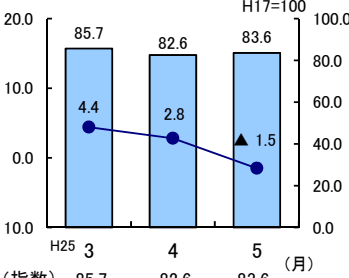


乗用車新車登録台数

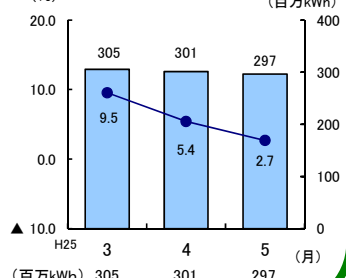


生産

鉱工業生産指数

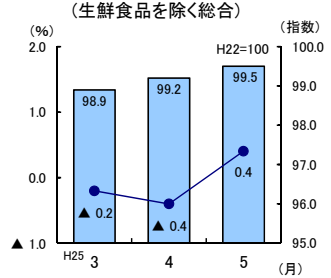


大口電力使用量

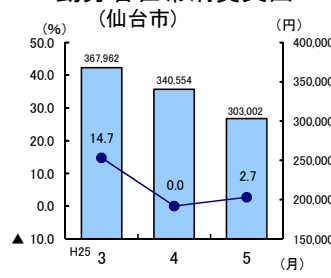


家計

仙台市消費者物価指数

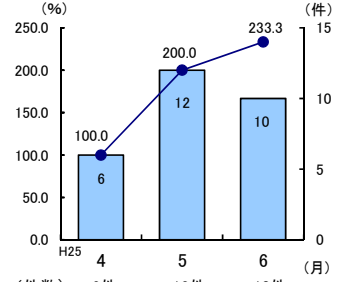


勤労者世帯消費支出



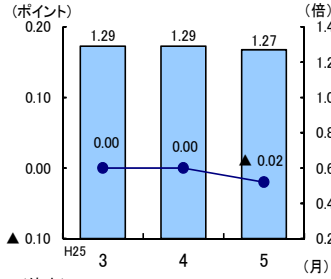
企業倒産

企業倒産件数

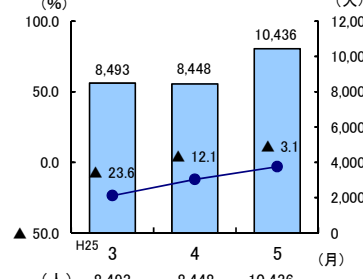


雇用

※有効求人倍率



雇用保険受給者実人員



Ⅱ 主な指標の動き

1 生産

(1) 鉱工業生産指数

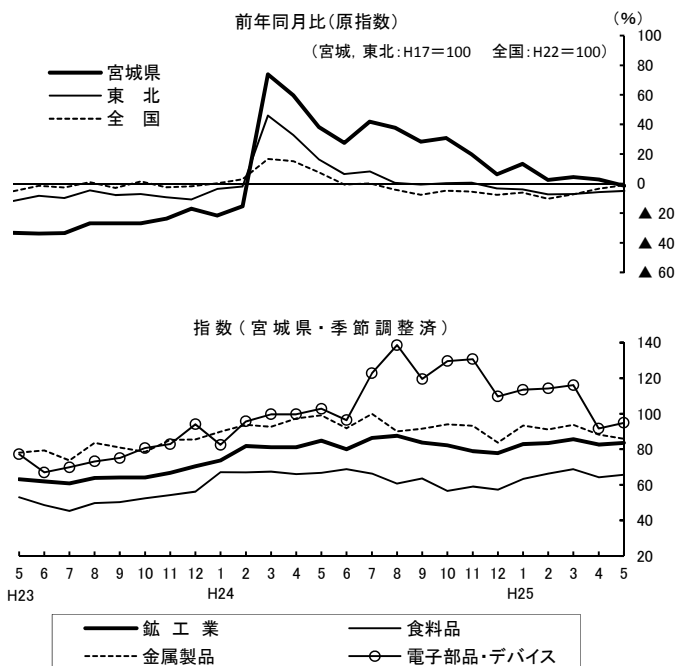
5月の鉱工業生産指数(季節調整値, 平成17年=100)は83.6(速報値)で, 前月比1.2%の上昇となり, 2か月ぶりの上昇となった。

業種別にみると, “輸送機械工業”, “化学, 石油・石炭製品工業”など9業種が上昇となった。一方で, “一般機械工業”, “非鉄金属工業”など11業種が低下となった。

前年同月比は1.5%の低下となり, 15か月ぶりの低下となった。

(資料: 県統計課)

→ 数値データは13ページに掲載



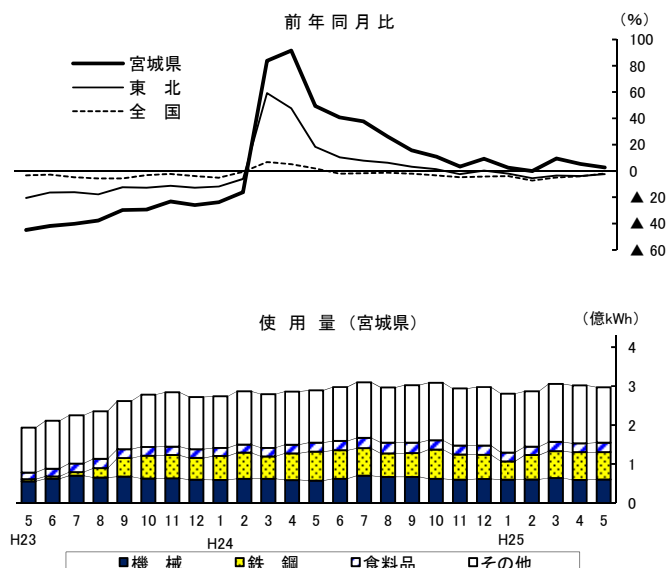
(2) 大口電力使用量

5月の大口電力使用量(契約電力500kW以上)は2億9,652万kWhで, 前年同月比2.7%の上昇となり, 3か月連続の上昇となった。

業種分野ごとに前年同月比をみると, 食料品分野は5.4%の上昇となり, 15か月連続の上昇となった。機械分野は4.6%の上昇となり, 3か月連続の上昇となった。鉄鋼分野は0.5%の減少となり, 3か月ぶりの減少となった。

(資料: 東北電力(株))

→ 数値データは15ページに掲載



2 投 資

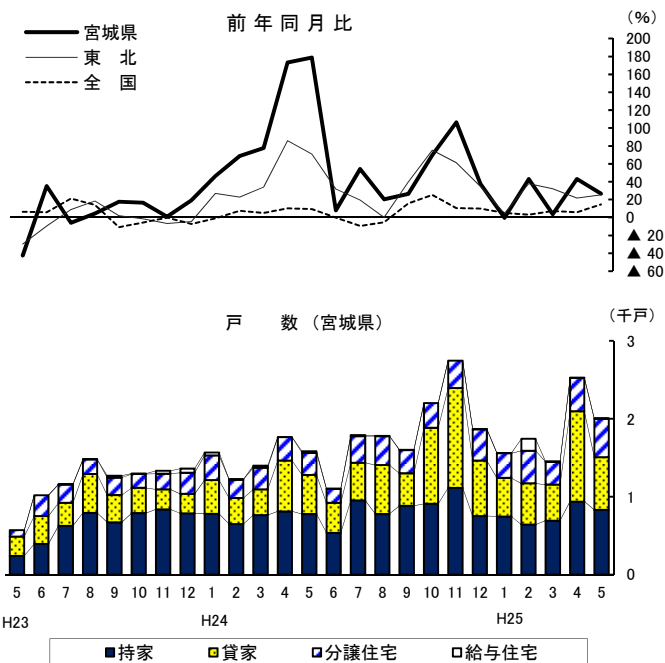
(1) 新設住宅着工戸数

5月の新設住宅着工戸数は2,004戸で、前年同月比26.6%の増加となり、4か月連続の増加となった。

利用関係別に前年同月比をみると、持家は7.1%の増加となり、2か月連続の増加となった。貸家は34.6%の増加となり、17か月連続の増加となった。分譲住宅は74.5%の増加となり、4か月連続の増加となった。分譲住宅のうちマンションは2か月連続の増加、一戸建ては17か月ぶりの減少となった。

(資料:国土交通省)

→ 数値データは16ページに掲載



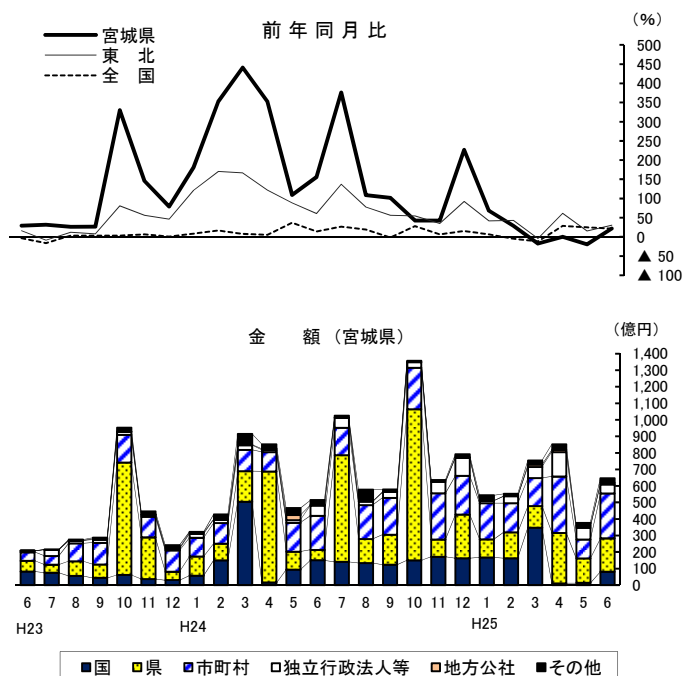
(2) 公共工事請負金額

6月の公共工事請負金額は646億3,300万円で、前年同月比21.5%の増加となり、4か月ぶりの増加となった。

発注主体別に前年同月比をみると、国は46.2%の減少となり、4か月連続の減少となった。県は150.8%の増加となり、2か月連続の増加となった。市町村は31.4%の増加となり、2か月ぶりの増加となった。

(資料:東日本建設業保証(株))

→ 数値データは18ページに掲載



3 消 費

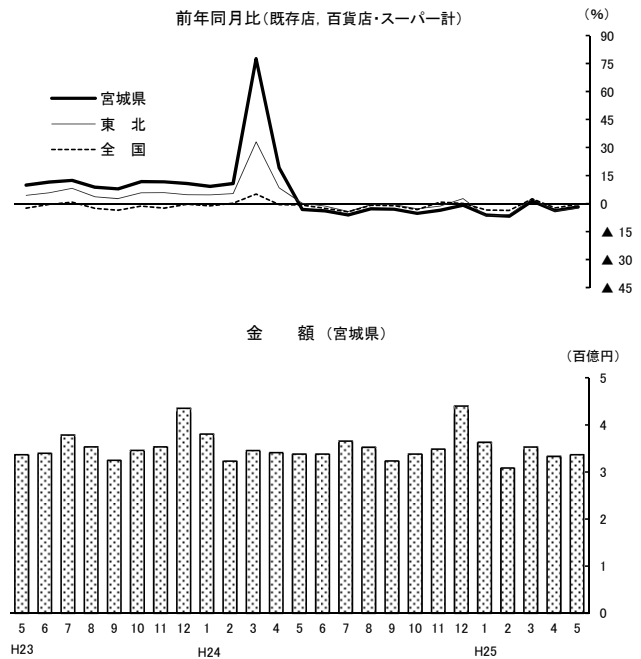
(1) 大型小売店販売額

5月の大型小売店販売額は336億6,600万円となった。前年同月比で見ると、既存店比較で1.8%の減少となり、2か月連続の減少となった。全店舗比較は、0.4%の減少となり、2か月連続の減少となった。

商品目別(既存店比較)にみると、飲食料品は1.7%の減少となり、5か月連続の減少となった。衣料品は2.7%の減少となり、2か月連続の減少となった。身の回り品は1.6%の減少となり、2か月連続の減少となった。

(資料:東北経済産業局)

→ 数値データは19ページに掲載



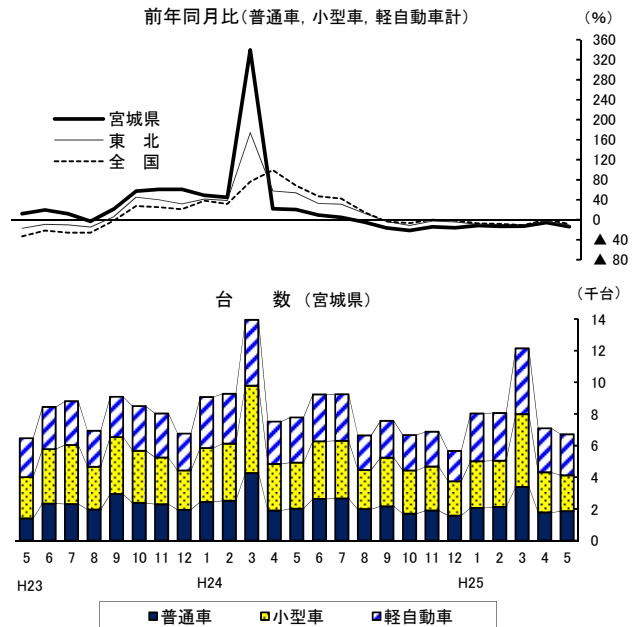
(2) 乗用車新車登録台数

5月の乗用車新車登録及び届出台数(普通乗用車、小型乗用車、軽乗用自動車の合計)は6,715台で、前年同月比13.7%の減少となり、10か月連続の減少となった。

車種別に前年同月比をみると、普通車は8.6%の減少となり、9か月連続の減少となった。小型車は21.8%の減少となり、11か月連続の減少となった。軽自動車は9.0%の減少となり、2か月ぶりの減少となった。

(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部、
全国軽自動車協会連合会)

→ 数値データは22ページに掲載



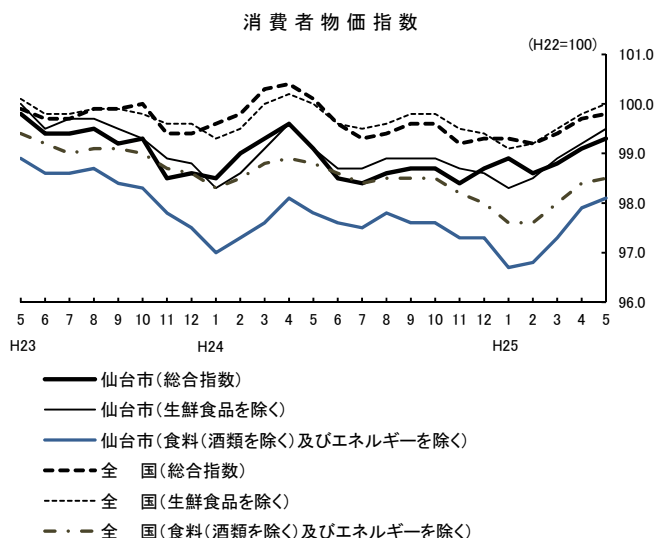
4 物 価

5月の仙台市消費者物価指数のうち生鮮食品を除く総合指数(平成22年=100)は99.5で、前月比0.3%の上昇となり、4か月連続の上昇となった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数(同)は98.1で、前月比0.2%の上昇となり、4か月連続の上昇となった。総合指数(同)は99.3で、前月比0.2%の上昇となり、3か月連続の上昇となった。

前年同月比でみると、生鮮食料品を除く総合指数(同)は0.4%の上昇となり、4か月ぶりの上昇、食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数(同)は0.3%の上昇となり、64か月ぶりの上昇、総合指数(同)は0.2%の上昇となり、4か月ぶりの上昇となった。

(資料:県統計課)

→ 数値データは31ページに掲載



5 雇 用

(1) 求人倍率

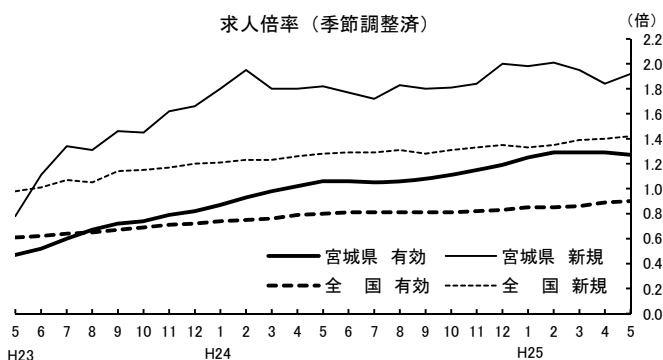
5月の有効求人倍率(季節調整値, 新規学卒者除きパートタイム含む)は1.27倍で、前月を0.02ポイント下回り、10か月ぶりの低下となった。新規求人倍率(同)は1.92倍で、前月を0.08ポイント上回り、3か月ぶりの上昇となった。

月間有効求人数及び新規求人数(新規学卒者除きパートタイム含む)は、有効が前年同月比4.1%の増加となり、39か月連続の増加となった。新規は前年同月比2.0%の増加となり、26か月連続の増加となった。

新規求人数を産業別にみると、“公務”や“宿泊業・飲食サービス業”などで増加、“生活関連サービス業, 娯楽業”, “運輸業, 郵便業”などで減少となった。

(資料:宮城労働局)

→ 数値データは27ページに掲載

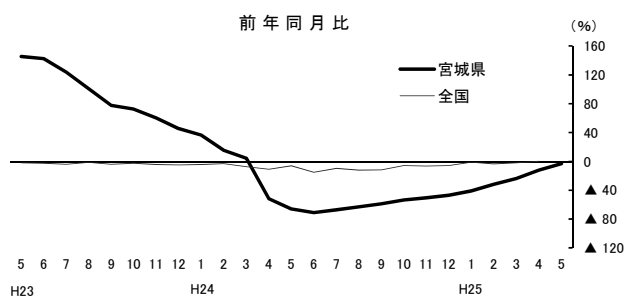


(2) 雇用保険受給者実人員

5月の雇用保険受給者実人員は10,436人で、前年同月比 3.1%の減少となり、14 か月連続の減少となった。

(資料:宮城労働局)

→ 数値データは 29 ページに掲載



6 企業倒産

6月の企業倒産(負債総額1,000万円以上)は10件で、前年同月比 233.3%の増加となり、6か月連続の増加となった。

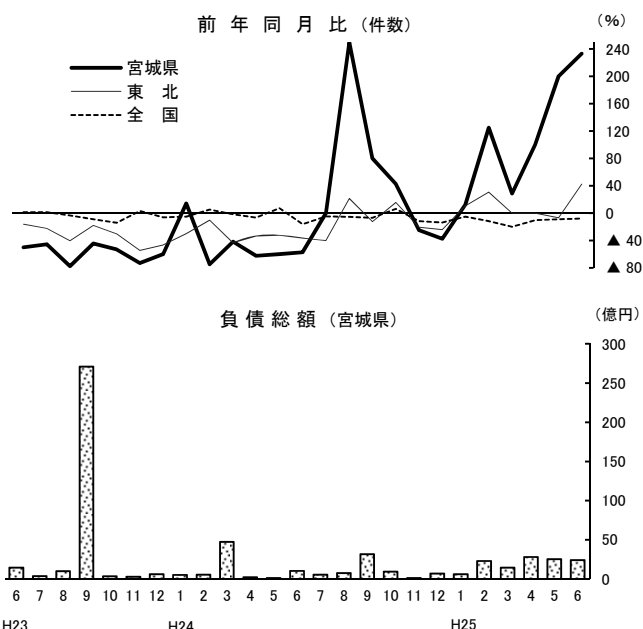
負債総額は23億9,500万円で、前年同月比 138.3%の増加となり、3か月連続の増加となった。

大型倒産(負債総額10億円以上)は発生しなかった。

不況型倒産(販売不振, 売掛金回収困難, 赤字累積)の件数は7件となり、全体に占める構成比は70.0%となった。

(資料:株東京商工リサーチ)

→ 数値データは 30 ページに掲載



Ⅲ 宮城県景気動向指数（概要）

1 概況

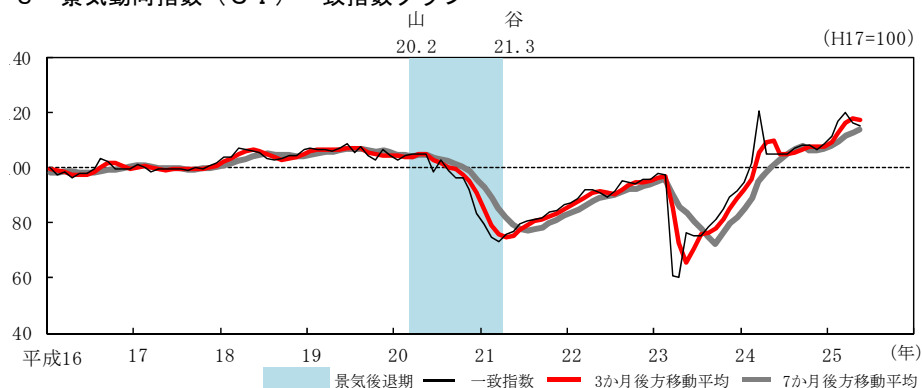
平成25年5月のC I（H17=100）は、**先行指数 105.5**、**一致指数 115.2**、**遅行指数 116.6**となった。
 先行指数は前月差で 2.4ポイント下降し、2か月ぶりの下降となった。
 一致指数は前月差で 1.3ポイント下降し、2か月連続の下降となった。
 遅行指数は前月差で 0.1ポイント下降し、4か月連続の下降となった。

2 景気動向指数（C I）の推移及び個別系列の寄与度

系列名	平成24年	平成25年					
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
C I 先行指数	99.3	103.9	108.9	105.6	107.9	105.5	
前月差（ポイント）	-2.0	4.6	5.0	-3.3	2.3	-2.4	
3か月後方移動平均	99.0	101.5	104.0	106.1	107.5	106.3	
7か月後方移動平均	99.4	100.3	101.5	101.9	103.3	104.6	
L1 新規求人数(学卒除く、パート)	0.25	0.33	0.51	-0.48	-0.24	-0.14	1
L2 投資財生産指数	2.16	-0.11	1.34	-0.51	0.84	-0.89	2
L3 生産財生産指数	-3.43	2.22	-0.48	1.59	-0.72	0.97	3
L4 日経商品指数(42種)	1.14	1.25	0.54	0.36	0.09	0.61	4
L5 乗用車新車新規登録台数(軽含む)	-1.06	1.07	0.16	0.39	2.00	-2.27	5
L6 新設住宅着工床面積	-1.08	-0.78	1.83	-1.47	1.36	-0.58	6
L7 全銀貸出残高(前年同月比)	-0.03	0.34	1.52	-3.65	-1.07	-0.43	7
L8 中小企業業界景況感(前年同月比)	-0.06	0.12	-0.46	0.34	-0.07	0.36	8
一致トレンド成分	0.03	0.15	0.12	0.10	0.07	0.05	
C I 一致指数	108.6	111.6	117.0	119.9	116.5	115.2	
前月差（ポイント）	1.9	3.0	5.4	2.9	-3.4	-1.3	
3か月後方移動平均	107.7	109.0	112.4	116.2	117.8	117.2	
7か月後方移動平均	106.9	107.8	109.5	111.4	112.6	113.6	
C1 所定外労働時間指数(調査産業計)	-0.15	0.31	0.67	-0.20	-0.31	-0.01	1
C2 有効求人倍率(合計)	1.09	1.26	0.97	-0.06	-0.48	-1.05	2
C3 実質定期給与指数(製造業)	-0.27	0.19	1.87	0.66	-0.42	0.01	3
C4 鉱工業生産指数	-0.30	1.60	0.22	0.74	-0.96	0.53	4
C5 大口電力使用量	0.75	-0.88	1.63	0.76	-0.31	-1.33	5
C6 実質大型小売店販売額(前年同月比)	0.57	-1.41	0.16	1.84	-1.26	0.45	6
C7 輸入通関実績	0.20	1.87	-0.08	-0.81	0.32	0.11	7
C I 遅行指数	115.2	127.1	121.8	117.4	116.7	116.6	
前月差（ポイント）	2.1	11.9	-5.3	-4.4	-0.7	-0.1	
3か月後方移動平均	114.2	118.5	121.4	122.1	118.6	116.9	
7か月後方移動平均	111.6	115.1	117.2	117.7	118.0	118.3	
Lg1 離職者数(事業主都合)〔逆〕	0.08	2.24	-0.72	-1.19	-2.38	1.61	1
Lg2 雇用保険受給者実人員〔逆〕	0.10	0.49	-0.66	-0.42	0.66	-3.86	2
Lg3 消費者物価指数(仙台市, 前年同月比)	0.07	1.04	-0.45	-0.39	-0.86	3.79	3
Lg4 勤労者世帯消費支出(仙台市, 前年同月比)	-1.25	0.70	-0.58	1.46	-1.37	0.27	4
Lg5 営業倉庫保管残高	2.48	2.98	-2.66	0.54	2.09	-0.51	5
Lg6 法人事業税調定額	0.54	4.26	-0.37	-4.42	1.05	-1.46	6
一致トレンド成分	0.03	0.18	0.14	0.11	0.08	0.05	

(注)〔逆〕は逆サイクル系列を表す。また、C1所定外労働時間指数とC3実質定期給与指数は現時点で算出に含まれていないため、トレンド成分のみを通じた寄与度を表す。

3 景気動向指数（C I）一致指数グラフ



IV 全国・東北等の景況

1 全国の景況

月例経済報告（内閣府） 7月23日 [<http://www.cao.go.jp/>]

景気は、着実に持ち直しており、自律的回復に向けた動きもある。

- ・輸出は、持ち直しの動きがみられる。生産は、緩やかに増加している。
- ・企業収益は、製造業を中心に改善している。設備投資は、おおむね下げ止まっており、一部に持ち直しの動きもみられる。
- ・企業の業況判断は、改善している。
- ・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善している。
- ・個人消費は、持ち直している。
- ・物価の動向を総合してみると、デフレ状況は緩和しつつある。

先行きについては、輸出が持ち直し、各種政策の効果が発現するなかで、企業収益の改善が家計所得や投資の増加につながり、景気回復へ向かうことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。

金融経済月報（日本銀行） 7月12日 [<http://www.boj.or.jp/>]

わが国の景気は、緩やかに回復しつつある。

海外経済は、引き続き製造業部門に緩慢な動きもみられているが、全体としては徐々に持ち直しに向かっている。そうしたもとで、輸出は持ち直している。設備投資は、企業収益が改善するなかで下げ止まっており、持ち直しに向かう動きもみられている。公共投資は増加を続けており、住宅投資も持ち直しが明確になっている。個人消費は、消費者マインドが改善するもとで、引き続き底堅く推移している。以上の内外需要を反映して、鉱工業生産は緩やかに増加している。企業の業況感は改善している。

先行きのわが国経済は、国内需要の底堅さと海外経済の持ち直しを背景に、緩やかに回復していくと考えられる。

2 東北の景況

管内（東北6県）の経済動向（東北経済産業局）7月10日 [<http://www.tohoku.meti.go.jp/>]

全体の動向：東日本大震災からの緩やかな回復が続いている。

- ・ 鉱工業生産：生産は下げ止まり，一部に持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費：堅調に推移している。
- ・ 住宅着工：持家，貸家，分譲とも大幅に増加している。
- ・ 公共投資：公共工事請負金額は，前年を大幅に上回っている。
- ・ 設備投資：震災からの復旧・復興による設備投資がみられた24年度と比較し，25年度計画は減少している。
- ・ 雇用：新規求人倍率，有効求人倍率ともに高い水準となっており，改善の動きが続いている。
- ・ 企業倒産：倒産件数は小康状態が続いている。

経済の動き（日本銀行仙台支店）7月18日 [<http://www3.boj.or.jp/sendai/>]

東北地域の景気は，回復しつつある。

最終需要の動向をみると，公共投資は，震災復旧関連工事を主体に，大幅に増加している。設備投資は，増加している。個人消費は，底堅く推移している。住宅投資は，震災に伴う建て替え需要等から増加している。生産は，下げ止まっており，持ち直しに向かう動きもみられている。こうした中，雇用・所得環境は，改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は，前年を下回った。

地域経済報告—さくらレポート—（日本銀行）7月4日

[<http://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm/>]

東北地域の景気は，回復しつつある。

最終需要の動向をみると，公共投資は，震災復旧関連工事を主体に，大幅に増加している。設備投資は，増加している。個人消費は，底堅く推移している。住宅投資は，震災に伴う建て替え需要等から増加している。生産は，下げ止まっており，持ち直しに向かう動きもみられている。こうした中，雇用・所得環境は，改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は，前年を下回っている。

3 宮城県の景況

県内景気の動き (七十七銀行) 7月22日 [<http://www.77bank.co.jp>]

県内景況をみると、震災復旧事業の増勢などに伴い経済活動は総じて高水準で推移しているが、一部に弱めの動きがみられるなど、回復のテンポは鈍化してきている。

生産は横ばい圏内の動きとなっている。需要面の動きをみると、住宅投資は震災に伴う建替需要を中心に増加している。公共投資は震災復旧工事などから大幅に増加している。個人消費は総じて底堅く推移している。一方、雇用情勢は総じて改善しているが、労働需給のミスマッチが残存している。